

■ポーランド：ドイツからの再エネ電力の流入を阻止する計画

ドイツ国内誌の2011年12月4日付報道によると、ポーランドの送電系統運用者（PSE）は、ドイツから予期せぬ再生可能エネルギー発電等による余剰電力が流れ込まないように、位相調整器（Phase Shifter）の導入を計画している。ポーランドでは、これまで自国の石炭火力発電所の出力を低下させ、電力系統の過負荷を回避してきたが、流入量がさらに増加した場合、過負荷で停電を余儀なくされ可能性もある。一方、ポーランドで位相調整器が導入された場合、ドイツ国内の電力系統が過負荷となり、ドイツで停電の可能性が高まるとみられている。政府系の研究機関であるドイツ・エネルギー機関のコーラー専務理事は、再生可能エネルギーへのエネルギー転換を図るには、国内の送電系統の強化とともに、余剰電力の輸出を継続する必要があるとあり、政府はポーランドやその他隣国との交渉を即座に開始すべきとしている。